

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	15	大学等名	福岡歯科大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、教学マネジメントの拠点として「教育支援・教学 IR 室」を新設し、卒業時アウトカムの設定、新シラバスの作成等のシステム構築を図ったことにより、大学全体の改革が加速された点は十分評価できる。また、プレースメントテスト等の実施・分析による「入学者選抜の妥当性の評価・検証」、GPA や歯科医師国家試験成績等の入学後の学業成績との相関分析・検証による「入学後の教育の妥当性の評価・検証」に加え、学修到達度調査を根拠とした授業内容改善を行うなど、総合的な大学教育改革の取組が行われていると評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、前述のとおり事業開始年度に「教育支援・教学 IR 室」を新設し事業実施基盤を整備したことをはじめとして、順次、卒業時アウトカムの設定、新シラバスの作成、学習到達度調査試験結果の分析まで、教育改善に関する取組を着実に実施し、成果を上げている点は十分評価できる。また、必須指標のうち「授業満足度アンケートにおける授業満足率」及び「学生の授業外学修時間」については事業開始年度の実績値より増加するとともに、令和元年度の実績値は目標値を超えている点は評価できる。ただし、同じく必須指標である「退学率」については、事業開始年度の実績値から悪化していることに加え、令和元年度の目標値を達成していないことから、原因の究明を基にした早急な改善策の策定と実行が必要である。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を室長とする「教育支援・教学 IR 室」及び「教学支援・教学 IR 運営委員会」を中心として学務委員会、FD 委員会、地域連携センター等と連携し、教職協働型の組織的な実施体制が整備されている点は十分評価できる。また、「教育支援・教学 IR 室」による各種教学データの分析結果をエビデンスとして、事業内容、教育内容、カリキュラム及び学習方法の改善に係る PDCA サイクルが整備されている点についても評価できる。

事業成果の普及については、学生のアウトカム修得状況により、カリキュラムの内容、構造、教授方法などの教育改善を行う先駆的モデルとして、学会・シンポジウム等での発表や論文発表を数多く実施した点は評価できる。